

## みんなの寄付 2021年夏期募集 活動完了報告

### 《概要》

申請内容：『テアトロ・コッチャアカデミーでの活動助成』

### 《報告および成果》

今回のアカデミーでの活動では、実践を通じてこれまでに培った歌手との経験や知識を自分の指揮に繋げていくものであった。成果としては、自分の音楽的研鑽が間違いなく確固としたものになりつつあることが証明された、そんな研修期間であった。

特に、研修期間の最後に行われたオペラ「椿姫」では、オーケストラによる実習があり、指揮をしながら、いかに歌手のパートを理解しているか、そして音楽、ドラマに対して強固な解釈ができていないかを試された。充実した学習期間のおかげで、歌のパートをほとんど覚え、オーケストラスコアも全て暗譜してピアノで弾き、それぞれの場面に於いて独自の解釈まで行き着けたことは、今後の探求への大きな希望となった。

また、コース内で知り合うことのできた指揮者ダニエーレ・アジマン氏からはトスカニーニ、セラフィン、ガヴァツェーニなどのイタリアオペラを歴史的にリードしてきた指揮者たちのスタイルの一部を教えていただいた。このことは私が潜在的に求めていた志向性にも合致することから、今後の研鑽のビジョンが明確になったことが何より喜ばしい。

コースの主な教育者であるマッテオ・ベルトラミ氏からは、どのように体を使うことで自分の望む音に繋げていくのかということに注意深く勉強させていただいた。氏との勉強においては自分がどのように動いているか、自分がどのように見えているかを客観視する眼を養うことができた。

最後にコース期間内にて自分が指揮をした（サンドリオン、シンデレラ）がイタリアのニュース番組に取り上げられ、ストーリーミング放送もされた。プロダクションを通じて、言語の違いはさほど問題ではないと実感した。自分が言いたいことや表したいことに自分自身どれほどの確信があり、どれほど人を信頼しているかが重要なのである。結局のところ、自分の内面をいかに磨くことができるかにかかっているということ、プロダクションを進める中、肌感覚で実感することができた。

### 《今後の課題について》

今回の活動を通して、一つの作品のクオリティの上げ方を自分の中で体系化することができた。つまり、深さに関して、私の今の状態は興味深く、順調な成長を重ねているように思う。

これからはより多くのレパートリーを知り、曲と曲のつながりや相関関係の理解をより一層深められるようになりたい。

例えば、ヴェルディの作品一つを演奏する時に、ヴェルディがどのような影響を他の作曲家から受けたのか。また、何が彼の個性で、何が他人からの影響なのか。このような

ことを、深いレベルで理解している自分になりたいと強く思う。

また、作曲家に関するイタリア語の文献も、積極的に読み進めていきたい。

本流のイタリアオペラに指揮者、少なくとも自分がそう思う指揮者になるには一つでも多くの曲に関する情報を集めることが必要不可欠である。

またこれ以外にも、アーティストに最も必要なのは人間としての創造的な部分である、日々を幸せに、充実感を持って進んでいくこと。そして、自分の知識、想像力、今まで歩んできた人生を統合しつつ、今の自分の等身大を受け入れることが、優れた芸術家にとって必要なことではないだろうか。

《その他》

今回偶然知り合うことのできたアジマン氏の下での勉強を続ける。

二月からイタリア、パルマの近郊の町にて半年間のオペラ指揮者コースにて研鑽予定。

コースの終わりにはモーツァルトのオペラを1本オーケストラ伴奏により上演することができる。今後もさわかみオペラ財団の助成金や奨学金を応募する機会があれば積極的に申し込みをさせていただく所存である。